

# さ ざ ん か

第96号、2009年11月

だいたいこの時期の巻頭言（あるいはその類似モノ）の定番フレーズは、今年も残り少なくなってしまうでしたね。本当に時の流れの早さを感じざるを得ませんね。まあ、こういう雰囲気が多いのでしょうか。

あるいは、深まる秋を想いながらの今年の冬に備える心構えとか、少しずつ今年を振り返ったりしたりとか、そういうフレーズが多いのではないかと思います。でも、そこは「ルーチン」ですから、地球が自転し、公転する間は仕方のない季節の繰り返し。仕方のない、なのか、かけがえのないなのかは定かではありませんが、多分、両方なのでしょう。人智が及ばないところに人智を及ぼそうとするのもまた楽し、ともいえます。

毎回、同じような季節でありながら、毎年違う秋を迎えている。当然、1日1日も繰り返し替えるルーチンの中で、じつは日々異なっている。その違いを実感できる時は、多分、生き生きとしている時で、その違いが実感できない時（昨日も、今日も明日も一緒だ。去年も今年も、来年も結局同じだ）には上手く生きていけてない時なのかも知れません。

政権交代と云う大きな政治的変動があったわりには、まだ日常の地殻変動は感じる事ができません。多分、これからジワッと、政権交代を選択してよかった、或いは、しまった、失敗した、自民党の方がまだ良かった、とかいろいろ思うようになるのでしょう。どちらにしても、マンネリの第一歩から踏み出したことだけは間違いないし、すくなくともあのまま続けて戦後体制を続けることを選択しなかったわれわれの判断は正しかったのだと思います。

取りあえずは、医療、福祉の分野でこれまでの血も涙もない政策だけは変更して欲しいと願うものです。弱者の立場に立ってほしいと思いながら、一方で、一部の弱者の傲慢さに引きずられて欲しくないという、複雑な気持ちもあります。国が何かをしてくれることを望むのでなく、国に何が出来るのかを考えろ、という魅惑的なフレーズは自由の国アメリカにのみふさわしいわけでもないでしょう。

---



---

## 俳句

西屋敷 喜美子

年毎に 動きの鈍き 行く秋ぞ

かさかさと 落葉の音の 路を行く

老二人 十時のお茶の 膝毛布

## 病院からのお知らせ

- \* 新型インフルエンザが猛威をふるいつつあります。手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。考えようによっては、早めにかかって早めに新型インフルエンザに対する免疫をつける、というのも逆説的には良いのかもしれませんが。
- \* 季節性インフルエンザのワクチンは生産量が例年より少なくもう品物がなくなりました。いつものつもりでおられた方の中には、接種できなかつた方もいるようです。見通しの甘さと説明不足がありました。申し訳ありませんでした。
- \* 新型インフルエンザワクチンも予約したかた全員に接種できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- \* 12月5日（土）に昨年に引き続き健康セミナーを開催する予定です。元気こころ館で開催する予定にしております。お誘いあわせの上、多数ご参加下さい。詳しいセミナーの内容は後日病院外来に掲示する予定です。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてはいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

---

---

## 生きる喜び

別府政隆

私の生家は旧薩摩町中津川の北部に位置する高台にあり、80 数戸の集落がある。中岳の連山から、見下ろすあたり1面に畑地帯が広がっている。また、観音滝公園から約1キロ、そこに、昔から引き継いだ農家で今も必死に生活<sup>くら</sup>らしている。私は兄弟姉妹も多く、五番目として誕生した。幼少の頃から良く父母の後を追って手伝っていた。丁度、その頃、母が教えてくれた事を懐かしく思い出しています。

人間は、真面目で正直でなければいけません。又、あたえられた事は最後までやる努力をする事。人には親切な気持を忘れてはならない。これが、母の一言である。併し、その母も13年前に他界した。こうしてペンを執り乍らも思う。いつの世代でも母が教えてくれた事は通用するのでは。時に私も思い出し、これまでも子や孫達にもこの事を教えて来たが、今の世代の子供達は、どう受け止めているのだろうか。自分達の世代と現代を重ね合わせて見る時、とても不安を感じる。

同じ年代や近所の友人とは話が合い、時を忘れることもしばしば。高齢者学習に参加し、回を重ねる度に友人が増え、生き甲斐を感じるほどです。人は、顔、形が変わる様に、考え方、話し方も違うところが面白い。人の話を聞く事が好きです。生きる喜びとは、お互いゆずり合い、助け合いの精神でなければならないと思う。この世の中は、人によって生かされていると云う事ではなかろうか。これらを考える時、自分が健在の時に、前向きにあらためるべきと思う。中には自分の一生を無にする人も少なくないのでは。この人程、哀れさを感じます。私も七十三才。今のこの世に生きる喜びを感じ乍らも必死に努力しています。残された人生を悔いのない事を願って、妻と2人でひっそりと生活しています。明日も光明に恵まれますように。

---

---

## 隣の芝生

カラーマン (とその女)

隣の芝生は青く見えるらしい。そういう意味合いの諺はあちこち全世界であるとか。昔、人食いの習慣があったところでは、隣の妻は美味しそうだ、とか言っていたとか。(そ、そうなの。じゃあ、男女同権で言うと、隣の旦那は脂がのって美味しそう！て、なるのかしらん。職場だと、隣の女子社員は今が旬、とか隣の部長は燻製にしないとまずくて食べないなんてなるのかしら。ああばからしい。)

隣の芝生が青く見えた結果、当然、今度は自分の家の芝生も負けず劣らず芝を育成して青く見せるのであろう。要するに、隣と同じ状態で居たい、という心理状態なのであろうか。表面上は、隣に負けたくないということなのかも知れないが、結局はどこかで平等・

対等でありたい、と思っているのだ。本当はどこの家にも庭に芝を植える必要さえないのであるが、どこかで誰かが始めるといつの間にか付和雷同してしまう。そう、それがわれわれニッポン人の変わらぬ体質である。

(まあ、そうかしらね。隣の子が塾に行ったらうちの子も、隣が海外に行けばうちも・・・なんてことは多いわね。まあ、そんなに悪いことでもないのではないかしら。行かなかった人達をほっといてくれればね。なんで、行かないの？などよけいなお節介だけはごめんだわね。ほんとそうだわ。嫁にいかなくても、子供を生まなくても別にあなた達にその理由を説明する必要はこれっぽちもないのだわ。まったく。大きなお世話よ。なんか意味もなく腹がたってきたわ。人のことはほっといて。それよりも、じぶんのアタマのハエを追いなさいよ。まったくこの付和雷同人間どもが！)

まあまあ、冷静に。こういうことを思ったのは、最近のインフルエンザの予防接種に右往左往する人々を見てからである。ほぼ、パニック状態のごとく、新型インフルエンザか季節性インフルエンザかの明確な区別もつかないままに、いつ打って貰えるのかと、病院には問い合わせが殺到しているという。

むかし、ワクチンの副作用が問題で、一時期はインフルエンザワクチンをする人はあまり居なかったことはもう忘れてる。ワクチンを止めた時も、副作用の怖さでパニック状態になり一斉にやらなくなった。いまと正反対だ。しかし、今の新型インフルエンザワクチンにしても正確なデータはないようだが、ワクチンの副作用が数万人に1人の死亡だとしたとき、5千万人に接種すれば、1万人に1人死亡で換算すると5千人、10万人に1人死亡で換算すると500人が死亡することになる。

(そう考えると、ちょっとこわいわね。おとなしくインフルエンザに感染して、学校や会社をどうどうと休んで、おうちで美味しいものを食べながら、テレビ見たりゲームしてゴロゴロしていた方がいいかもしれないわね)

もちろん、インフルエンザ感染で死亡する確率とワクチンの副作用で死亡する確率のどちらが危険であるかという問題ではあるのだが、現時点でそのどちらかが絶対的に高いという結論は出ていないであろう。年齢によっても有用さは異なるであろう。だから、少し、立ち止まって考えるべきなのである。ネコも杓子もワクチン接種に走るの怖い。しかも、足りないと聞けばよけい欲しくなるらしい。

かつて、石油ショックと呼ばれた経済クラッシュが起こったことがあった。そのときにトイレトペーパー騒ぎというのがあって、多くのニッポン人がトイレトペーパーを求

めてスーパーへ殺到したことがあった。付和雷同。乗り遅れることへの恐怖感。

（そういえばあったわね。今思うとなんでトイレトペーパーだったのかしら。洗剤もそうだったかしらね。原油価格の上昇とは直接は関係ないはずなのにね。不思議だわね。人間は。というかニッポン人はと云うべきかしら）

もっと、前には、一億総出でマッカーサー将軍と米軍を歓迎した。ギブミーチョコレート。とりあえず、一億総ざんげ。これからは何でもかんでもとにかく大事なものは民主主義だ。せつかくいただいたチョコレートと脱脂粉乳と平和憲法。後生大事にしなくてはならない。もう、二度と教え子を戦場へ送らないぞ。もっとも、一度は送っちゃったけどごめんね。それはわすれて水に流そう。

（憲法とチョコレートは一緒じゃないでしょう。それに、もらいものでも美味しいければそれでいいのよ。敗戦を機会に民主主義と引き換えにして民族のプライドは捨ててしまったのだから。のちに鄧小平も言ってたわ。黒いネコでも白いネコでもねずみを取る猫がいいネコだ。だとしたら、手作りでも、もらいものでも、押しつけられたモノでも、平和憲法がいい憲法なんだわ！）

もっと、前には一億総火の玉であった。鬼畜米英に対して、総出で竹やり訓練を行い、贅沢をするヤツを縛り上げ、民主主義をのたまう奴らは特高へ密告、パーマメントをするネエチャンはしばいたれ。神国日本。天皇の赤子。陛下の写真の前では、どこであっても最敬礼。結局は、敵の手のひらの上で踊っていたパールハーバー。ミッドウェイでは、七面鳥のごとく、打ち落とされたゼロファイター。

（でも、真珠湾攻撃は見事だったわよ。もともと米軍も日本軍が真珠湾に攻撃してくる情報は持っていたらしいのに、あれだものね。大勝利。あそこまで米軍艦隊をぶちのめしたのは、あとにも先にもあのパールハーバーだけだわ。それに、ゼロ戦は世界に誇る世界最先端のニッポンの技術だったのよ。とって素敵で誇らしいわ）

もっと前には、日本の生きる道は満蒙開拓しかなかった。東北の貧しさゆえに売られる娘達を何とかしなければならぬ。満蒙は日本の生命線だ。ここはお国を何百里、離れて遠き満州の・・・ 皇道派と統制派。国を思わない小軍人達の派閥争い。

（この辺での民族としての誇りと節操があればねえ。歴史にイフはない、というけれど、いかにもこのあたりの戦略間違いは残念としかいえないわね。保守ネエチャンのあたしから見ると。この頃にいい男って出てないのよねえ、竜馬とか西郷さんとかこの頃にいればねえ。残念。これって司馬史観なのかしら）

もっと前には、莫大な犠牲をだして、やっと何とか辿り着いたロシアとの講和を、一方

的勝利と信じて國中あげてちょうちん持って、お祭り騒ぎをしていた。落ちぶれかけた帝政ロシアとの極東での局地戦に勝ったに過ぎなかったのだが。

(まあそれも日英同盟の後ろ盾とかロスチャイルド家に国債を買って貰ったとかの支えがあってやっとのことだったのだけど、それでも有色人種が白人に勝った初めての近代戦ではあったのよね。それなりにアジア人に勇気を与える結果となったようだしね。それ思うと、昔、欧州の人々を心底びびらせたジンギス汗ってすごいわね。だてに鍋にはなっていない、って感じだわ)

もっと前には、文明開化、文明開化と大騒ぎして、西洋のモノマネに走り始めた。夏目の金ちゃんの「上滑りの文明開化に過ぎない」と云う感想は確かであった。

それよりもっと昔の日本人は、今よりは付和雷同はしなかったのかもしれないが、それでも、ええじゃないか、ええじゃないかの「お蔭参り」の話などを聞くとやっぱり一緒かなあとも思う。

行き過ぎた個人主義ほど鼻につくものはないが、一方でなんでもかんでも付和雷同というのもまた厭なものである。中庸こそ真髄であろうが、じつはこれが一番難しい。

てげてげ、中庸、バランス感覚、いい塩梅、良い加減。アルカリでもなく酸性でもなく。熱帯でもなく寒帯でもなく。出しゃばりでもなく引っ込み思案でもなく。美人でもなくブスでもなく……

(中途半端と中庸の違いが分かった時、少しはあなたも成長するのかもしいわね。女を美人かブスとしか2項対立でしか表現できないようなあなたではなくなるのかも……)

---

---

## ねがい

---

---

坂村真民

あなたに合わせる手を  
だれにも合わせるまで  
愛の心をお与え下さい  
どんなに私を苦しめる人をも  
すべてをゆるすまで  
広い心をお授け下さい

---

---

## 編集後記

---

---

寒い季節になりました。さすがに伊佐地方の寒さは、そこいらの薩摩とは年季が違うなあと改めて実感しております。ほんとに、朝方は寒い。ま、寒い冬があればこそ、春の待ち遠しさでしょうから、この寒さを楽しみたいと思っています。というか、それしかないから。皆さん、インフルエンザに負けずに、或いは負けながらも元気でこの冬を乗り切ってください。もうすぐまた、新しい年が来ますよ。(KT)